
MS5405DC
コンフィギュレーション ツール

型式 : MS5405DC Configuration Tool (Ver.1.00)

取扱説明書

Rev.1.00 2020年3月30日

目次

1. 適用	1
2. 注意	1
3. 概要	1
3.1. 特徴	1
3.2. 機能一覧	1
3.3. フォルダ構成	1
4. 動作環境	2
4.1. ハードウェア構成	2
4.2. 推奨動作環境	2
4.3. インストール	2
4.3.1. ツールのインストール	2
4.3.2. USBドライバのインストール	2
5. 起動方法	3
6. メインウィンドウ	4
7. 機能	5
7.1. 機器接続、ファイルアクセス	5
7.1.1. 接続	5
7.1.2. 切断	5
7.1.3. 設定情報読み込み	5
7.1.4. 設定情報書き込み	5
7.1.5. 設定情報比較	6
7.1.6. CSVファイル保存	6
7.1.7. CSVファイル読み込み	6
7.2. 各項目設定	7
7.2.1. 入力設定 ブロック	8
7.2.2. スケーリング設定 ブロック	9
7.2.3. 警報設定 ブロック	11
7.2.4. 表示設定 ブロック	13
7.3. 動作シミュレーション	14
8. エラー メッセージ	15
9. よくある質問	16
Appendix A ～COMポート番号確認方法～	17

1. 適用

本書は、PC 上で MS5405DC (以下、機器) の各種設定を行うコンフィギュレーションツール「MS5405DC Configuration Tool」の取扱説明書です。

2. 注意

本ツールのご使用にあたっては、以下の注意事項を必ずお守りください。

※本ツールは保守・点検時に使用することを目的としております。システム稼働中のご使用はお避け下さい。

※PC との接続/切断は通電状態でも行えますが、極力電源を遮断して行ってください。

※接続する PC は、バッテリー駆動のノート PC をご使用ください。

※本ツールの動作中に USB ケーブルの取外しを行わないでください。

※本ツール使用後は、必ずコネクタカバーを取付けた状態で機器を使用して下さい。

3. 概要

本ツールは、PC 上から接続した機器に警報動作点などの各種設定を行うためのツールです。

設定情報のファイルへの保存や、保存したファイルからの設定情報読み込みも可能です。

また、機器を接続していない状態でも、ツール上で設定した内容の動作シミュレーションが可能です。

3.1. 特徴

本ツールは以下の特徴があります。

- ・設定情報を CSV ファイルで保存や読み込みが可能で、交換もしくは複数台の設定で活用できます。
- ・シミュレータ機能があり、設定内容の警報動作や画面表示を確認可能です。
- ・マウスポインタを各設定項目に合わせた際に該当機能の強調表示や説明の表示により、設定変更をアシストします。

3.2. 機能一覧

表 3.1 機能一覧

機能	説明
設定変更	設定情報の読出しと書込み
設定比較	接続している機器とツール上で設定情報を比較
設定ファイルの保存	設定情報を CSV ファイルに保存
設定ファイルを開く	設定情報を CSV ファイルから読み込み
シミュレータ	警報動作や画面表示の動作シミュレーション

3.3. フォルダ構成

MS5405DC_Config_Verxxx (xxx は本ツールのバージョンを意味します)

- USB Driver
- MS5405DC_Config.exe
- 取扱説明書_MS5405DC_Config.pdf (本書)

表 3.2 ファイル一覧

ファイル、フォルダ	説明
USB Driver	USB ドライバ フォルダ
MS5405DC_Config.exe	コンフィギュレーションツール本体
取扱説明書_MS5405DC_Config.pdf	本書

4. 動作環境

4.1. ハードウェア構成

ハードウェア構成を下図に示します。

※接続する PC は、バッテリー駆動のノート PC をご使用ください。

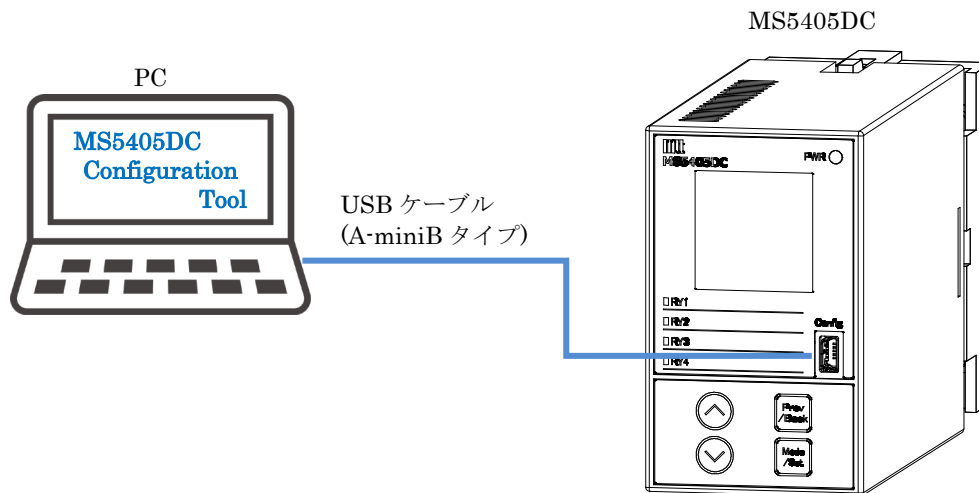


図 4.1 ハードウェア構成

4.2. 推奨動作環境

表 4.1 推奨動作環境

OS	Windows 8.1 以降
CPU	1GHz 以上
メモリ	1MByte 以上
インタフェース	USB 2.0 (1 ポート)
ディスプレイ	解像度 1024×768 以上

4.3. インストール

4.3.1. ツールのインストール

「MS5405DC_Config.exe」をローカルフォルダの任意の場所（デスクトップ等）にコピーします。
旧バージョンをインストール済みの場合は、旧バージョンの「MS5405DC_Config.exe」を削除してください。
その後、新バージョンの「MS5405DC_Config.exe」をコピーしてください。

4.3.2. USB ドライバのインストール

・ Windows 10 の場合は、USB ドライバのインストールは不要です。

・ Windows 8.1 の場合は、USB ドライバのインストールが必要です。

- ① PC と機器を USB ケーブルで接続します。
- ② デバイスマネージャーを開き、[ポート] → [MS5405DC USB PCDC]を右クリックし、
[ドライバの更新]を選択します。
- ③ ドライバソフトウェアの検索場所に「USB Driver」フォルダを指定し、インストールを実施します。

5. 起動方法

「MS5405DC_Config.exe」をダブルクリックし、本ツールを起動します。
起動するとメイン ウィンドウを表示します。

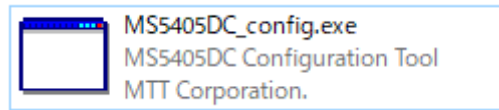


図 5.1 MS5405DC_Config.exe アイコン

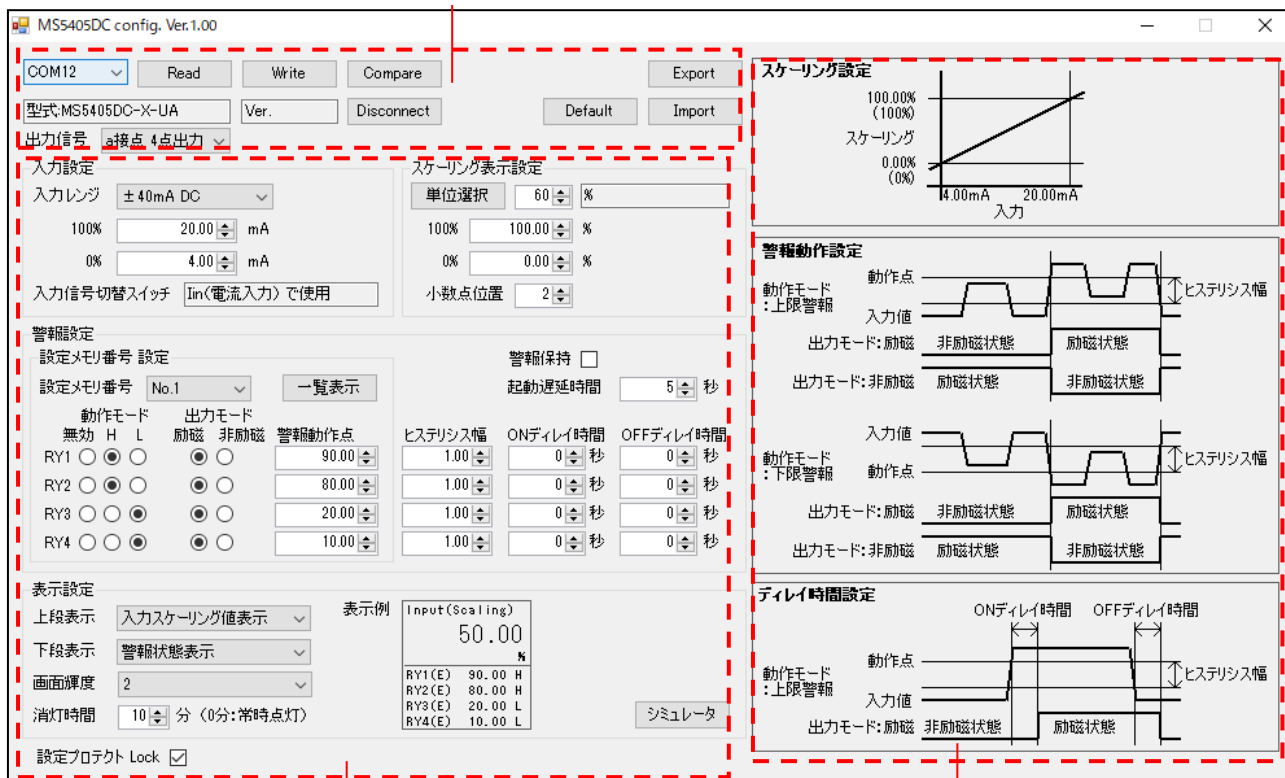
※起動時に下記ウィンドウが表示された場合、「この機能をダウンロードしてインストールする」を選択し、表示に従い .NET Framework 3.5 のインストールを完了してください。



図 5.2 Windows の機能 ウィンドウ (.NET Framework 3.5 のインストール)

6. メインウィンドウ

①通信／ファイル グループ



②設定 グループ

③機能説明 グループ

図 6.1 メインウィンドウ

表 6.1 メインウィンドウ項目

No.	項目	説明
①	通信／ファイル グループ	機器と接続やファイルアクセスなどを実施するグループです。 機器と接続して設定情報の書込み、読出し、比較を行います。 また、設定ファイルの保存や読込みも可能です。 詳細は「7.1. 機器接続、ファイルアクセス」を参照してください。
②	設定 グループ	各設定の変更を行うためのグループです。 各項目を機能ごとにブロック分けして表示しています。 詳細は「7.2. 各項目設定」を参照してください。 また、「シミュレータ」ボタンでシミュレータ ウィンドウを表示することができます。 詳細は「7.3. 動作シミュレーション」を参照してください。
③	機能説明 グループ	主なパラメータについて機能別に説明を表示しています。 各パラメータにカーソルを合わせた場合や、設定ブロックで項目を選択した場合は、 設定ブロックと機能説明ブロック両方の該当項目が強調表示されます。

7. 機能

7.1. 機器接続、ファイルアクセス

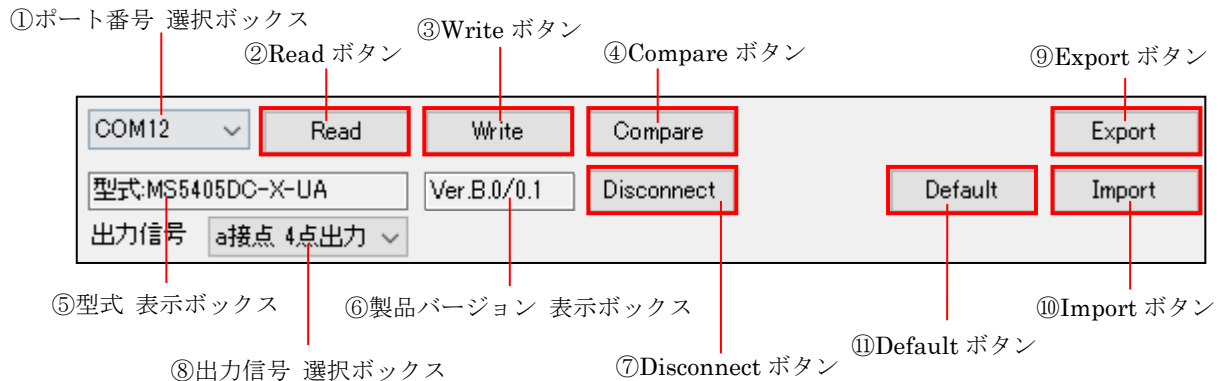


図 7.1 通信／ファイル グループ

表 7.1 通信／ファイル グループ項目

No.	項目	説明
①	ポート番号 選択ボックス	接続した機器の COM ポート番号を選択します。 COM ポート番号の確認方法は「Appendix A」を参照してください。
②	Read ボタン	接続した機器から設定情報を読み出します。
③	Write ボタン	接続した機器に設定情報を書込みます。
④	Compare ボタン	接続した機器の設定情報とツール上の設定情報を比較します。 比較結果は、比較結果 ウィンドウ (図 7.2) に表示されます。
⑤	型式 表示ボックス	接続した機器の型式、又は出力仕様選択ボックスで選択した仕様の型式を表示します。
⑥	製品バージョン 表示ボックス	接続した機器のバージョンを表示します。
⑦	Disconnect ボタン	接続した機器との接続を切断します。
⑧	出力信号 選択ボックス	出力信号を選択します。 接続した機器と異なる場合、Write ボタンをクリックしても設定を書き込みません。
⑨	Export ボタン	ツール上の設定情報を CSV ファイルに保存します。
⑩	Import ボタン	CSV ファイルから設定情報を読み込み、ツール上に反映させます。
⑪	Default ボタン	ツール上の設定情報を出荷時設定に変更します。 型式、製品バージョン、出力信号は変更されません。

7.1.1. 接続

PC と機器を USB ケーブルで接続します。

ポート番号選択ボックス (①) で COM ポートを選択することで機器との通信が可能になります。

7.1.2. 切断

Disconnect ボタン (⑦) をクリックし、切断成功ダイアログが表示されることで切断されます。

切断後に USB ケーブルを取り外してください。

7.1.3. 設定情報読み

接続した後に、Read ボタン (②) をクリックし、接続した機器から設定情報を読み込んでツール上に反映します。

7.1.4. 設定情報書き込み

接続した後に、Write ボタン (③) をクリックし、接続した機器へツール上の設定情報を書込みます。

※書き込み時にエラーが発生した場合、機器の設定状態は不定です。接続を確認し、再度書き込みを実施してください。

7.1.5. 設定情報比較

接続した後に、Compare ボタン (④) をクリックし、接続した機器とツール上の設定情報を比較します。

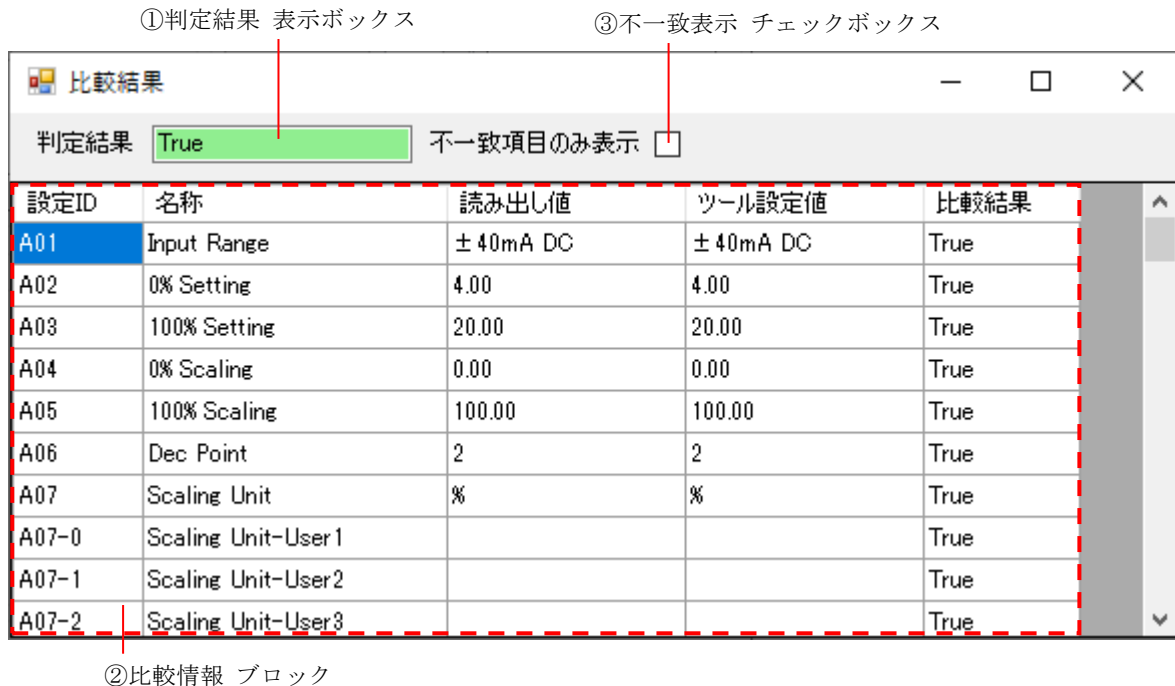


図 7.2 比較結果 ウィンドウ

表 7.2 比較結果 ウィンドウ項目

No.	項目	説明
①	判定結果 表示ボックス	全ての設定情報の判定結果を表示します。 完全一致は True 、異なる項目がある場合は False と表示されます。
②	比較情報 ブロック	接続した機器の設定情報（読み出し値）とツール上の設定情報（ツール設定値）を表示します。 比較結果の列に一致している項目は True 、異なる項目は False と表示されます。
③	不一致表示 チェックボックス	チェックを入れると不一致の項目だけ抜粋して比較情報ブロックに表示します。

7.1.6. CSV ファイル保存

Export ボタン (⑨) をクリックし、ツール上の設定情報を CSV ファイルに保存します。

7.1.7. CSV ファイル読み込み

Import ボタン (⑩) をクリックし、事前に Export した CSV ファイルを選択することで CSV ファイルの内容を、ツール上の各項目に反映します。

7.2. 各項目設定

①入力設定 ブロック

②スケーリング設定 ブロック

③警報設定 ブロック

④表示設定 ブロック

⑤設定プロテクト チェックボックス

⑥シミュレータ ボタン

図 7.3 設定 グループ

表 7.3 設定 グループ項目

No.	項目	説明
①	入力設定 ブロック	入力関連を設定します。
②	スケーリング設定 ブロック	スケーリング関連を設定します。
③	警報設定 ブロック	警報関連を設定します。
④	表示設定 ブロック	表示関連を設定します。
⑤	設定プロテクト チェックボックス	設定プロテクトの Lock/Unlock を設定します。 チェックを入れると Lock になります。 チェックを外す際には、確認メッセージを表示します。
⑥	シミュレータ ボタン	シミュレータ ウィンドウ (図 7.11) を開きます。 詳細は「7.3. 動作シミュレーション」を参照してください。

7.2.1. 入力設定 ブロック

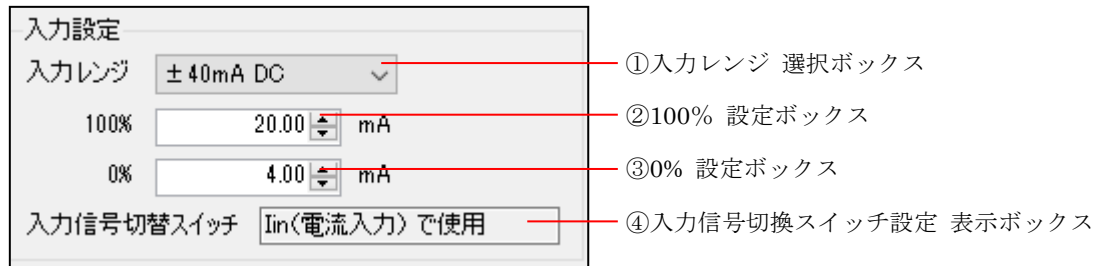


図 7.4 入力設定 ブロック

表 7.4 入力設定 ブロック項目

No.	項目	説明
①	入力レンジ 選択ボックス	入力レンジを選択します。 入力レンジにより、0%/100% 設定ボックスの設定可能範囲、最小スパンが決まります。
②	100% 設定ボックス	100%となる入力値を設定します。入力レンジにより、設定可能範囲が異なります。 また、0%設定との差が最小スパン未満には設定できません。
③	0% 設定ボックス	0%となる入力値を設定します。入力レンジにより、設定可能範囲が異なります。 また、100%設定との差が最小スパン未満には設定できません。
④	入力信号切替 スイッチ設定 表示ボックス	選択した入力レンジに対応する入力信号切替スイッチの設定を表示します。 入力レンジを変更後、表示されたスイッチ設定と機器のスイッチ設定が一致していることを確認してください。

7.2.2. スケーリング設定 ブロック

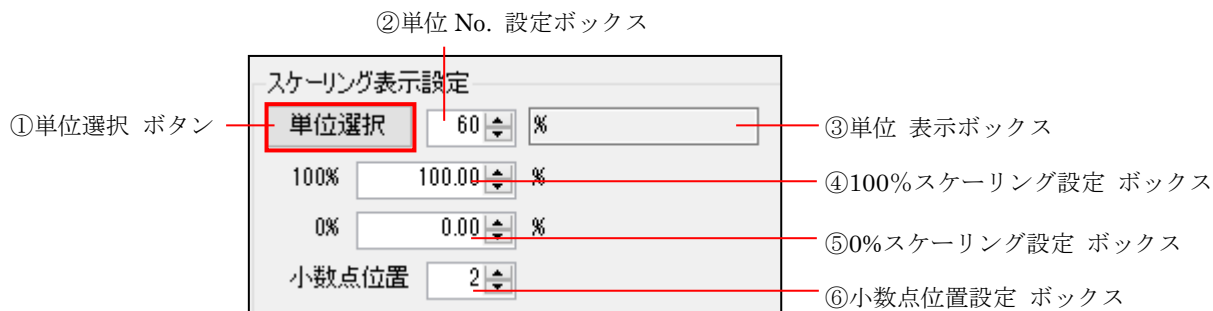


図 7.5 スケーリング設定 ブロック

表 7.5 スケーリング設定 ブロック項目

No.	項目	説明
①	単位選択 ボタン	単位選択ウィンドウ (図 7.6) を表示し、一覧から単位を選択できます。
②	単位 No. 設定ボックス	単位選択ウィンドウで設定した単位 No.を表示します。 また、単位 No.を直接設定することも可能です。
③	単位 表示ボックス	設定した単位を表示します。 単位 No. 122 (User) を選択時にクリックするとユーザ設定単位 ウィンドウ (図 7.7) を表示します。
④	100% スケーリング 設定ボックス	100%入力時のスケーリング値を設定します。 小数点位置設定 ボックスにより、設定できるスケーリング値が異なります。
⑤	0% スケーリング 設定ボックス	0%入力時のスケーリング値を設定します。 小数点位置設定 ボックスにより、設定できるスケーリング値が異なります。
⑥	小数点位置 設定ボックス	スケーリング設定の小数点位置 (小数点以下の桁数) を設定します。

<単位選択 ウィンドウ>

単位選択 ウィンドウでは、各単位のボタンをクリックして単位を設定します。
また、「122 (User)」を選択した場合は、ユーザ設定単位 ウィンドウ (図 7.7) が開きます。

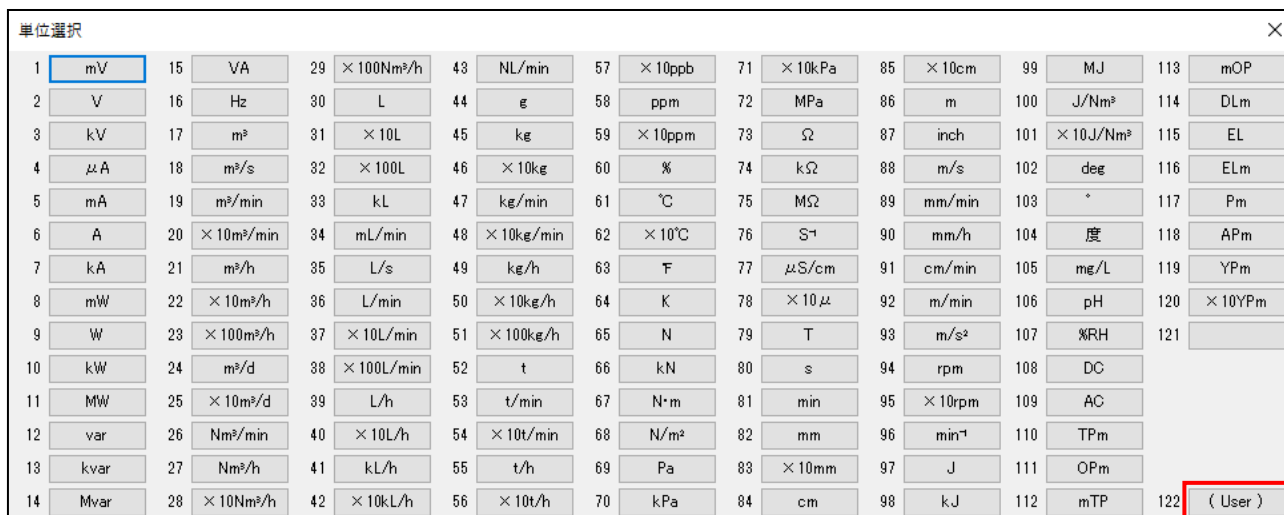


図 7.6 単位選択 ウィンドウ

<ユーザ設定単位 ウィンドウ>

ユーザ設定単位 ウィンドウでは、変更する文字の位置をクリックし、使用可能文字の一覧から1字ずつ選択し、ユーザ設定の単位を作成します。

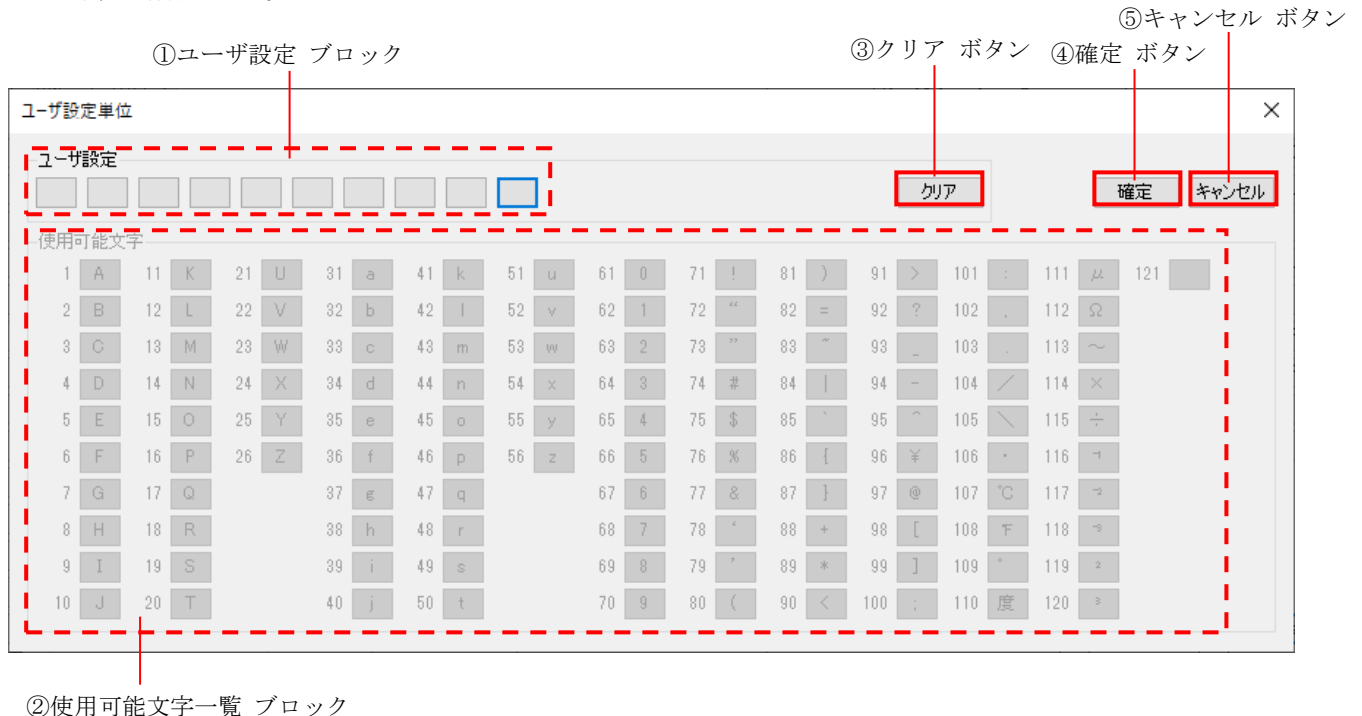


図 7.7 ユーザ設定単位 ウィンドウ

表 7.6 ユーザ設定単位 ウィンドウ項目

No.	項目	説明
①	ユーザ設定 ブロック	ユーザ設定単位を表示します。また、変更する文字の位置を選択可能です。 変更文字位置を選択しないと使用可能文字は選択できません。
②	使用可能文字一覧 ブロック	使用可能文字一覧から各文字のボタンをクリックしてユーザ設定 ブロックで選択した位置の一字を設定します。
③	クリアボタン	ユーザ設定単位の 10 文字すべてを空白文字にします。
④	確定ボタン	現在のユーザ設定単位を確定してメイン ウィンドウに戻ります。 確定したユーザ設定単位はメイン ウィンドウの単位 表示ボックスに反映されます。
⑤	キャンセルボタン	現在のユーザ設定単位を破棄して、メイン ウィンドウに戻ります。

7.2.3. 警報設定 ブロック

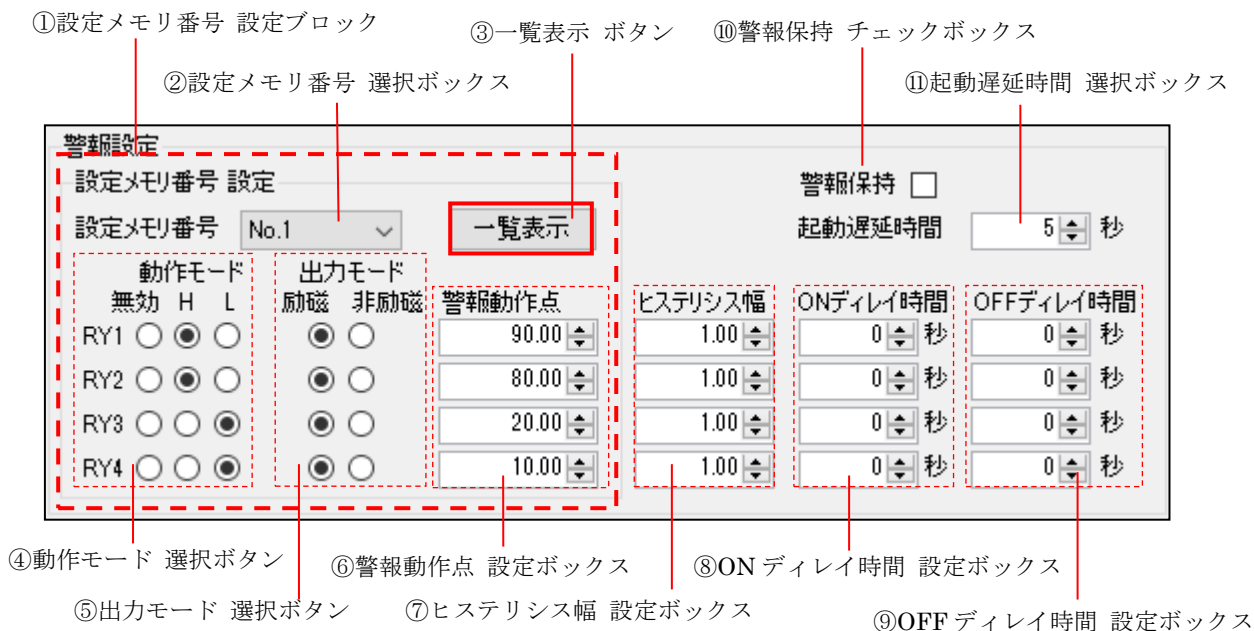


図 7.8 警報設定 ブロック

表 7.7 警報設定 ブロック項目

No.	項目	説明
①	設定メモリ番号 設定ブロック	現在選択中の設定メモリ番号の各設定を表示します。
②	設定メモリ番号 選択ボックス	使用する設定メモリ番号を選択します。
③	一覧表示ボタン	設定メモリ番号の全設定を一覧で表示します。 詳細は「図 7.9 設定メモリー一覧 ブロック」参照。
④	動作モード 選択ボタン	RY1～RY4 の警報動作方向を設定します。
⑤	出力モード 選択ボタン	RY1～RY4 の警報 ON 判定時におけるリレー励磁方向を設定します。
⑥	警報動作点 設定ボックス	RY1～RY4 の警報 ON 判定の動作点（閾値）を、スケール値で設定します。 0%～100%の範囲から外れる場合、赤字で表示されます。
⑦	ヒステリシス幅 設定ボックス	RY1～RY4 の警報 OFF 判定時のヒステリシス幅を、スケール値で設定します。 全ての設定メモリ番号の警報動作点との組み合わせのうち、いずれかの組み合わせで 0%～100%の範囲から外れる場合、赤字で表示されます。
⑧	ON デイレイ時間 設定ボックス	RY1～RY4 の警報 ON 判定に必要な、入力信号の継続時間を設定します。
⑨	OFF デイレイ時間 設定ボックス	RY1～RY4 の警報 OFF 判定時から、リレー操作までのデイレイ時間を設定します
⑩	警報保持 チェックボックス	警報保持の有効／無効を設定します。 チェックを入れると警報保持が有効になります。
⑪	起動遅延時間 設定ボックス	電源投入から警報判定開始までの時間を設定します。

<設定メモリー一覧表示 ブロック>

設定メモリー一覧表示 ブロックは機能説明 グループの場所に表示されます。
 設定メモリー一覧表示 ブロックでは、全てのメモリ番号設定の内容を一覧で確認/設定できます。
 設定メモリ番号 設定ブロックと、どちらからでも操作可能で、変更した場合も相互に変更が反映されます。

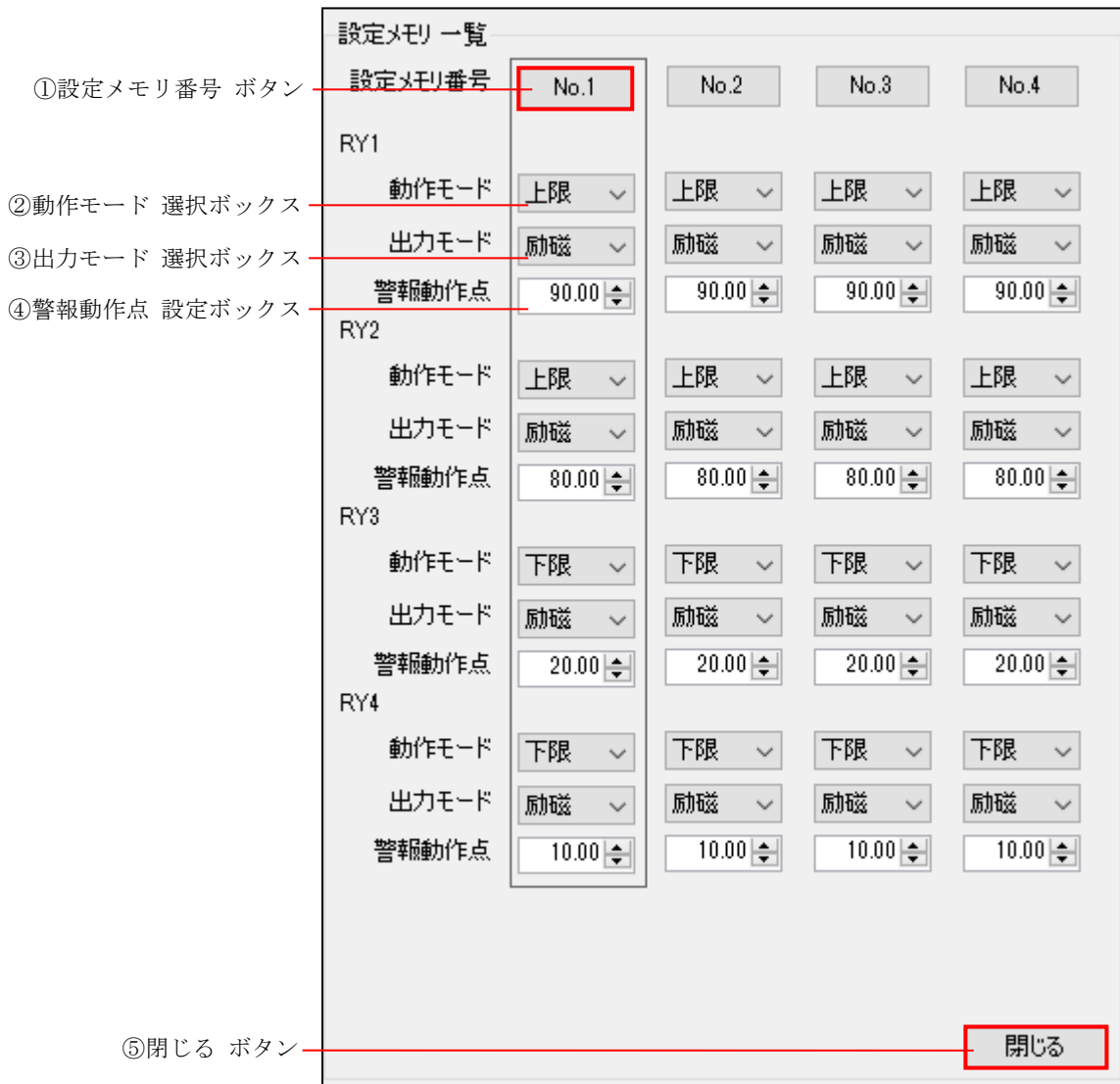


図 7.9 設定メモリー一覧 ブロック

表 7.8 設定メモリー一覧 ブロック項目

No.	項目	説明
①	設定メモリ番号 ボタン	使用する設定メモリ番号のボタンをクリックして選択します。 選択中の設定メモリ番号は枠で囲んで表示します。
②	動作モード 選択ボックス	RY1～RY4 の警報動作方向を設定します。 設定メモリ番号 設定ブロックでは、上限が'H'、下限が'L'になります。
③	出力モード 選択ボックス	RY1～RY4 の警報 ON 判定時におけるリレー励磁方向を設定します。
④	警報動作点 設定ボックス	RY1～RY4 の警報 ON 判定の動作点 (閾値) を、入力信号のスケール値で設定します。0%～100%スケールの範囲から外れる場合、赤字で表示されます。
⑤	閉じる ボタン	設定メモリー一覧 ブロックを閉じ、機能説明 グループに切り替えます。

7.2.4. 表示設定 ブロック

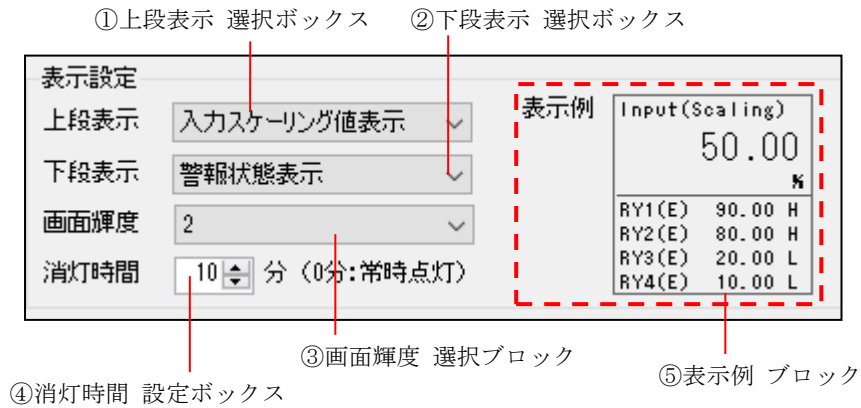


図 7.10 表示設定 ブロック

表 7.9 表示設定 ブロック項目

No.	項目	説明
①	上段表示 選択ボックス	通常動作モード時の画面上段の表示内容を設定します。
②	下段表示 選択ボックス	通常動作モード時の画面下段の表示内容を設定します。
③	画面輝度 選択ボックス	画面の輝度を設定します。
④	消灯時間 設定ボックス	画面を消灯するまでの無操作時間を設定します
⑤	表示例 ブロック	上段表示、下段表示選択ボックスの設定内容を表示例で確認できます。 ※イメージのため、実際の表示とはフォントや表示位置が異なり、一部の単位表示で表示が切れる場合があります。

7.3. 動作シミュレーション

シミュレータ ウィンドウでは、ツール上で設定した内容で、入力 設定バーやスケーリング換算 ブロックで入力値を変更し、その際の出力を画面表示 ブロックや出力表示 ブロックでシミュレーションします。

※表示の消灯などボタン操作にかかわる動作は模擬しません。

※シミュレータと機器の動作は、製品仕様の範囲内で表示値や警報動作点に差異があります。

(シミュレータは精度誤差等を含まない理論値を表示します。)

※シミュレータ ウィンドウ表示中はメイン ウィンドウの操作はできません。警報動作点等を変更する場合は、一度動作シミュレータ ウィンドウを閉じてからメイン ウィンドウで設定を変更してください。



図 7.11 シミュレータ ウィンドウ

表 7.10 シミュレータ ウィンドウ項目

No.	項目	説明
①	型式 表示ボックス	型式を表示します
②	出力信号 表示ボックス	出力信号を表示します。
③	画面表示 ブロック	画面表示をシミュレーションします。 <u>※イメージのため、実際の表示とはフォントや表示位置が異なり、一部の単位表示で表示が切れる場合があります。</u>
④	出力表示 ブロック	出力状態をシミュレーションします。 ・警報状態：警報判定状態を表示します。 ・LED：出力状態表示用 LED の点灯状態を表示します。 ・励磁状態：各リレーの励磁状態を表示します。 ・出力接点状態：出力信号に応じて接点状態を表示します。 ・ディレイ時間：ON/OFF ディレイ時間設定による遅延を表示します。
⑤	スケーリング換算 ブロック	入力設定 バーの設定値を各値の換算値で表示します。 また、任意のボックスで入力値を変更可能です。 入力範囲外や、オーバーフローの場合、赤文字になります。 <u>※赤文字の項目がある条件の場合、機器が正常に動作しない可能性があります。</u>
⑥	入力 設定バー	カーソルで上下に動かすことで入力値を変更可能です (設定範囲：-5%~105%)

8. エラー メッセージ

エラーメッセージが表示された場合は、下表を参照し必要な処置を行ってください。

表 8.1 エラー メッセージ表

メッセージ内容	発生要因	対策
お使いの PC にあるアプリには、Windows の次の機能が必要です	「.NET Framework 3.5」がインストールされていません。 ※本ツールは「.NET Framework 3.5」を使用しています。	「5. 起動方法」を参照し、インストールを完了してください。
出力信号が一致しません 設定を確認し再度書き込みを実施してください	接続している機器の出力信号と、出力信号 選択ボックスで選択している出力信号が異なります。	出力信号 選択ボックスの設定を見直して変更、もしくは接続する機器を変更してください。
範囲外の設定値があります 書き込みを実施しますか？	警報動作点が 0~100%の範囲にありません。 警報が発生しない可能性があります。	エラーメッセージに表示されている、設定メモリ番号を確認のうえ、メッセージ ウィンドウの「いいえ (N)」をクリックしてメイン ウィンドウに戻り、該当する警報動作点を見直して、変更してください。
	ヒステリシス幅設定と警報動作点の組み合わせにより、警報 OFF の動作点が 0~100%の範囲にありません。 警報が復帰しない可能性があります。	エラーメッセージに表示されている、設定メモリ番号を確認のうえ、メッセージ ウィンドウの「いいえ (N)」をクリックしてメイン ウィンドウに戻り、該当する警報動作点、ヒステリシス幅を見直して、変更してください。
	使用していない設定メモリ番号がある場合や、設定メモリ機能を使用しない場合に、使用していないメモリ番号の設定により警報動作点または警報 OFF の動作点が 0~100%の範囲にありません。	エラーメッセージに表示されている、設定メモリ番号が使用しない番号であることを確認のうえ、メッセージ ウィンドウの「はい (Y)」をクリックし、そのまま書き込みを実施して下さい。 ※使用しない設定メモリ番号も他の設定と同一にするなど、動作点を 0~100%の範囲内に設定することを推奨します。
読出しエラー 書き込みエラー 通信エラー	接続機器との通信に異常があり、読出し／書き込みができません。	USB ケーブルの接続、COM ポート番号を確認して再度実施してください。
読み出し:NG (xxx) 書き込み:NG (xxx)	接続機器に読出し／書き込みを実施中に異常が発生しました。	※書き込み時にエラーが発生した場合、機器の設定状態は不定です。必ず書き込みを再度実施してください。
ファイルを開けません	ファイルが存在しません。	選択したファイルを再確認してください。
	保存先が書き込み禁止です。	保存先を変更してください。
	ファイルへのアクセスが制限されています。	他のプログラムでファイルを開いていないか確認してください。
ファイル形式が異なります 範囲外の値が含まれているため ファイルを開けません	選択したファイルは本ツールで作成した CSV ファイルではありません。	正しい CSV ファイルを選択してください。

9. よくある質問

下表を参照し必要な処置を行ってください。

※エラーメッセージが表示された場合は「8. エラー メッセージ」を参照してください。

表 9.1 質問表

質問内容	発生要因	対策
ポート番号 選択ボックスに該当するポート番号が表示されない。	USB ドライバがインストールされていない可能性があります。 (OS が Windows 8.1 の場合のみ)	「4.3.2. USBドライバのインストール」を参照し、ドライバのインストールを実施してください。
	PC が機器を正常に認識していない可能性があります。 切断している可能性があります。	機器の USB ケーブルを再接続し、ポート番号 選択ボックスのプルダウンメニューを再表示してください。
	別のポート番号になっている可能性があります。	PC のデバイス マネージャーを開いてポート番号を確認してください。
0%/100%設定値が意図した値にならない。	入力レンジ設定により設定可能範囲が異なります。	入力レンジを選択後、入力 0%/100% 設定の変更を行ってください。
	最小スパン未満に設定できません。	0%/100%設定値の差が、最小スパン以上であることを確認してください。
	0%設定を 100%設定より大きくすることは出来ません。 100%設定を 0%設定より小さくすることは出来ません。	0%設定 < 100%設定となるように設定してください。 例えば 1~5V→6~10V に変更する場合、先に入力 100%を 10V に設定後、0%を 6V に変更してください。 (100%が 5V の場合、0%は 4V 以下に制限されています)
0%/100%スケール設定が意図した値にならない。	小数点位置により設定可能範囲が異なります。	小数点位置を設定後、0%/100%スケール設定の変更を行ってください。
警報設定が、グレイアウトして変更できない。	出力信号が c 接点の場合、RY2/Ry4 の設定は出来ません。	出力信号を c 接点以外にしてください。
	該当する RY の動作モードが無効の場合、設定は出来ません。	該当する RY の動作モードを無効から変更してください。
警報動作点の設定値表示が赤い。	警報動作点が 0~100%スケールレンジの範囲にありません。	0%/100%スケールレンジ、警報動作点の設定値を見直してください。
ヒステリシス幅の設定値表示が赤い。	ヒステリシス幅と警報動作点の組み合わせにより、警報 OFF の警報動作点が 0~100%スケールレンジの範囲にありません。	0%/100%スケールレンジ、警報動作点、ヒステリシスの設定値を見直してください。
シミュレータ ウィンドウで出力信号を選択できません。	出力信号はメイン ウィンドウの出力信号選択ボックスで設定してください。	「7.1. 機器接続、ファイルアクセス」を参照し、出力信号を選択してください。
比較結果ウィンドウの設定 ID 「A07-0」～「A07-9」に表示される「Scaling Unit:User1」～「Scaling Unit:User10」とは何ですか。	単位選択で 122 (User) を選択した場合に表示するユーザ設定単位の 10 文字のデータです。	単位選択 ボタンで 122 (User) を選択し、ユーザ設定単位 ウィンドウで変更可能です。
機器と同一設定にもかかわらず比較結果ウィンドウに「False」と表示されます。 不一致項目は設定 ID が「A07-0」～「A07-9」のみです。	単位選択で 122 (User) を選択していない場合もユーザ設定の単位は機器に保存されているため、見た目の設定が同一の場合でも不一致が発生します。	不一致表示 チェックボックスにチェックを入れて、不一致項目の設定 ID が「A07-0」～「A07-9」のみであることを確認してください。 ツールのユーザ設定を変更する場合は、単位選択 ボタンで 122 (User) を一度選択し、ユーザ設定を機器と同一の単位に設定後、単位選択 ボタンで目的の単位に戻してください。

Appendix A ～COMポート番号確認方法～

【手順 1】

USB ケーブルで PC と機器を接続します。

【手順 2】

「スタート」メニューから、「Windows システムツール」内の「コントロールパネル」をクリックしてください。

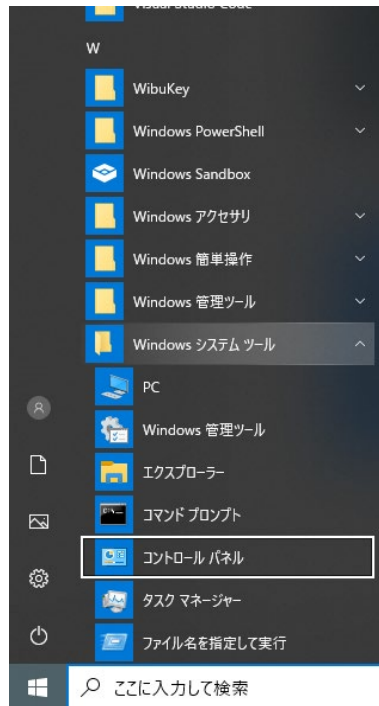


図 A.1 スタート メニュー

【手順 3】

「コントロールパネル」で「ハードウェアとサウンド」をクリックし、次の画面で「デバイスとプリンター」内の「デバイスマネージャー」をクリックしてください。

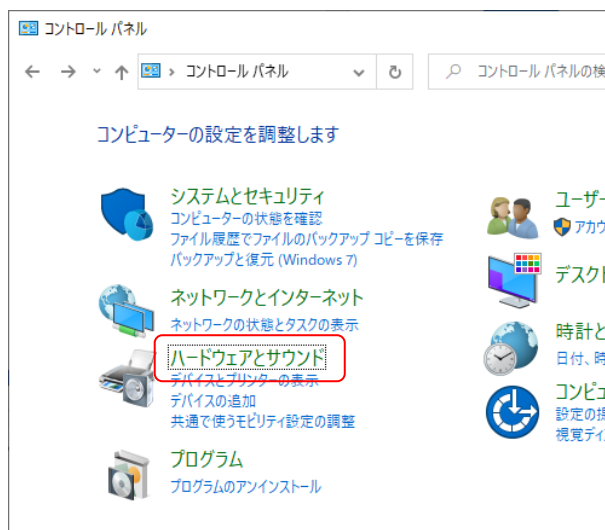


図 A.2 コントロールパネル

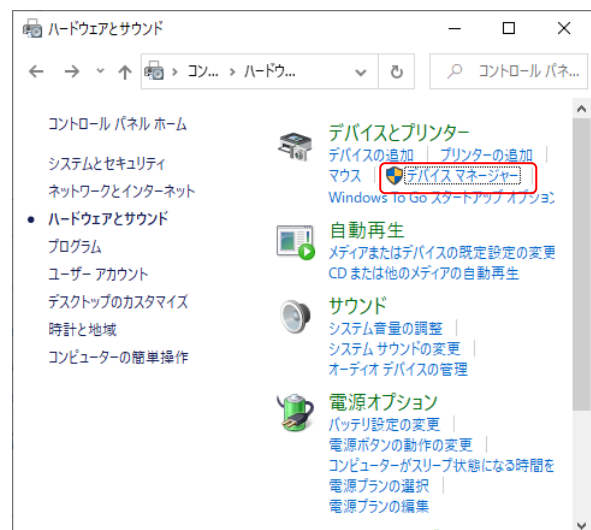


図 A.3 ハードウェアとサウンド

【手順 3】

デバイスマネージャの「ポート(COM と LPT)」を開き、「USB シリアルデバイス」の右側の「(COM x)」の番号を確認します。この番号が、COM ポートの番号です。

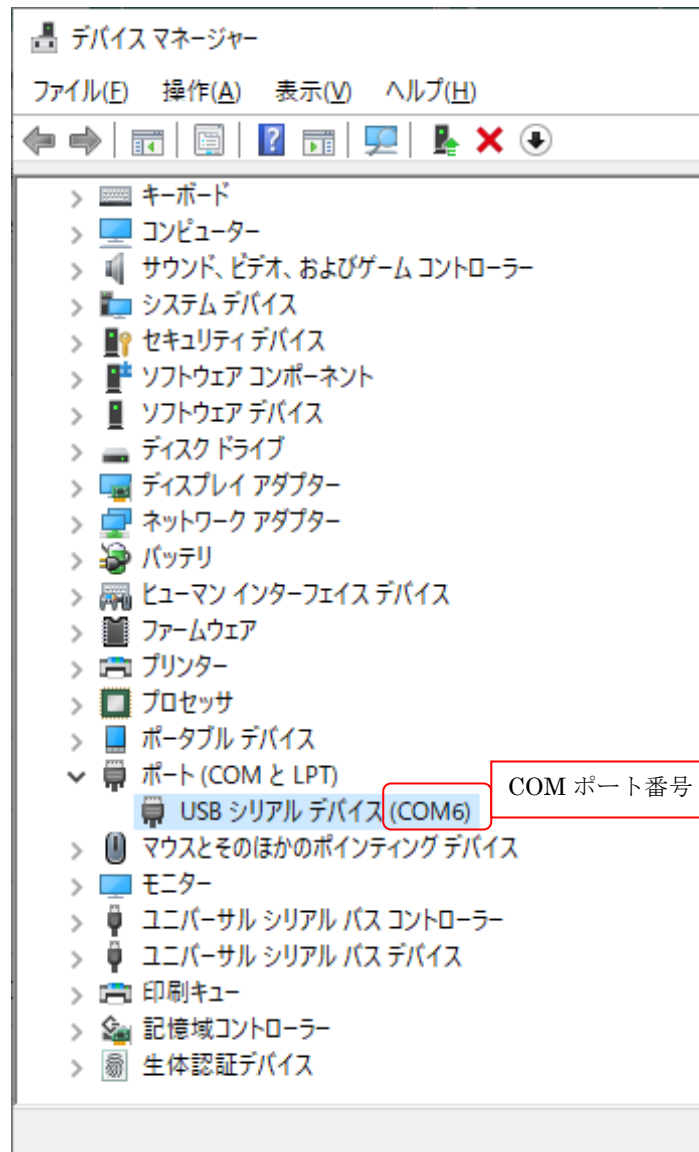


図 B.5 デバイス マネージャ画面 (COM 6 例)

【手順 4】

「USB シリアルデバイス」が MS5405DC であることを確認するため、右クリックで表示されるメニューから「プロパティ」をクリックしてください。

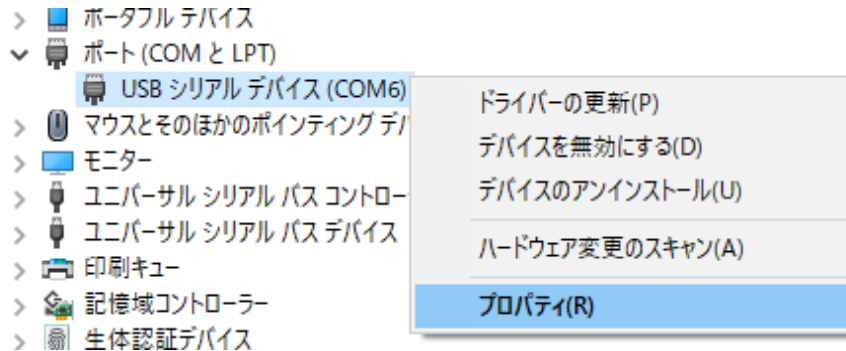


図 B.5 右クリックメニュー

「USB シリアルデバイス(COMx)のプロパティ」ウィンドウの「詳細」タブを表示し、プロパティ (P) の欄で「バスによって報告されるデバイスの説明」を選択してください。

値の欄に「MS5405」と表示されていれば、選択している COM ポートは MS5405DC です。

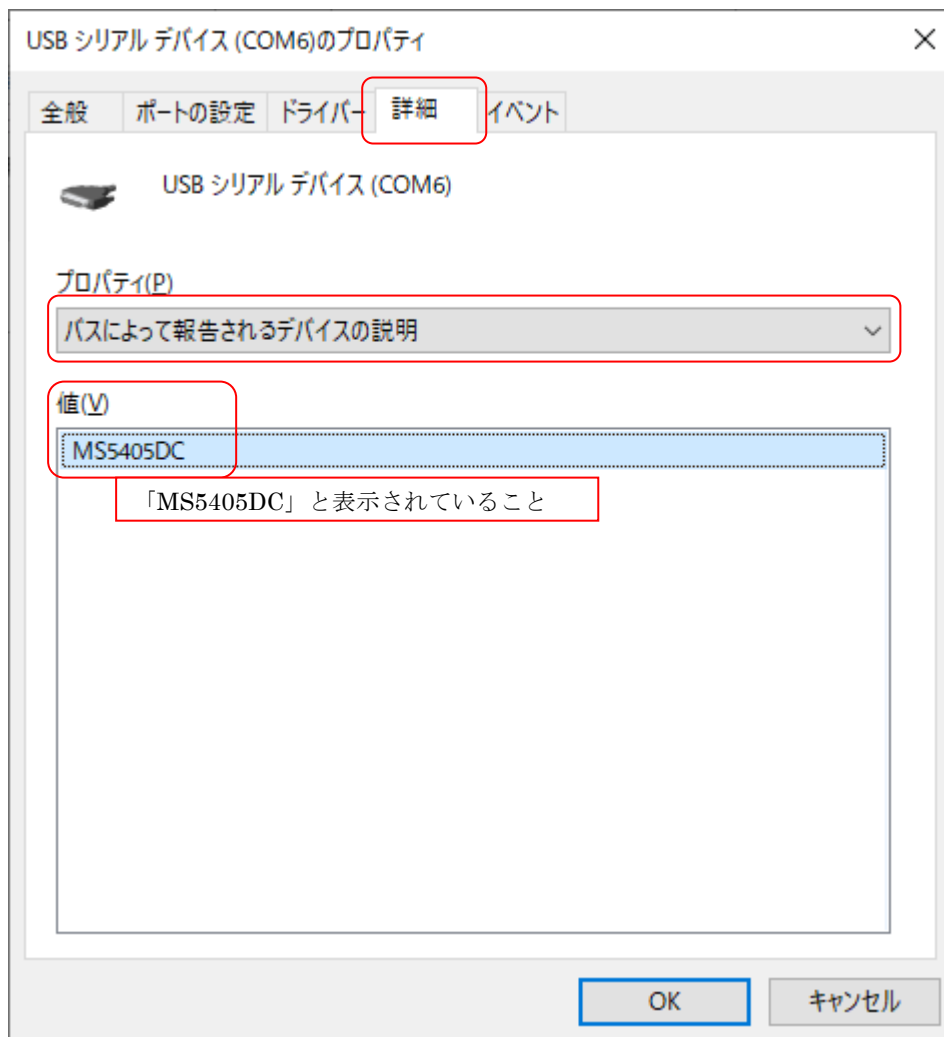


図 B.5 USB シリアルデバイス(COMx)のプロパティ